

令和５年度 聖籠町幼児教育推進体制を活用した 地域の幼児教育の質向上強化事業 有識者会議 次第

日 時 令和５年２月２０日（火）１５時～１６時３０分

場 所 聖籠町役場 大会議室

次 第

- １ 開会
- ２ 教育長あいさつ
- ３ 自己紹介
- ４ 説明・協議

（１）令和５年度本事業取組報告

（２）令和６年度からの取組について

（３）ご助言・ご感想・情報交換

（４）その他

- ５ 閉会

令和5年度 聖籠町幼児教育推進体制を活用した 地域の幼児教育の質向上強化事業 有識者会議 議事録

令和5年2月20日（火） 15時～16時30分

聖籠町役場 大会議室

【協議】

（事務局）

ただ今、令和5年度の事業の取り組みと次年度の取り組み予定について発表させていただきました。まずは、皆様からお一人ずつご感想と質問があればその中に入れていただければと思います。

（委員）

丁寧な説明をありがとうございます。まずは、質問をさせていただければと思います。今年度の事業報告で、2月14日に園小合同情報交換会が行われていますが、どのような内容で行ったのか教えていただけるとありがたいです。

それから、今年度の事業報告と来年度の事業計画を読ませていただいて、いろいろなところに配慮しながら計画を立て、事業展開をされてこられたということがよく分かりました。これも質問になるかもしれませんが、いろいろな会議や研修会が設定されていますが、小学校と理解の図り方というか、それがどのように小学校で活かされているかについての評価や検証をどのように進められているか教えていただけると大変ありがたいです。そして、この事業をずっと続けていくにあたって、持続可能性をもたせるための体制づくりを今このように考えていますというものがあれば、教えていただけるとありがたいです。

（事務局）

ありがとうございました。三つの質問をいただきました。一つ目は、2月14日の園小合同情報交換会の内容。二つ目が園小の研修会等の評価・検証がどのように小学校の方で活きているかということ。三つ目が持続可能な体制づくりですね。

（事務局）

まず、合同情報交換会ですが四つのことをもとに話し合っています。就学時健診での様子、5歳児担任が作成した引き継ぎ資料、体験入学の様子、5歳児保育参観での様子をもとに、子どもたちの良さをどう伸ばしていくか、またこのお子さんにはこういう配慮をしてもらえるとありがたいなど両方で情報を出し合い、新1年生になったときに子どもたちがスムーズに学校生活に適応し安心して通えるようにしています

次に、小学校との理解の図り方ですが、園小合同の活動や研修をやるたびに振り返りのアンケートを全て取っています。そこでの先生方の意見をもとに評価するとともに、さらにその意見を関係者協議会で小学校の校長先生や園長先生たちにも図り、今後の活動や接続につ

いて検討し改善を図っています。

三番目の持続可能な体制作りについてですが、幼児教育センターがあることでできること、また幼児教育センターがなかったらきっとできなかったであろう活動もあり、やはり幼児教育センターがあることでうまく機能していると思います。

(事務局)

他の研修会、県あるいは全国の方とお話している時にまず言われるは、幼児教育センターがあるということの強み。あとはこの町の大きさと園のシステムの変化がちょうど相まっているというところかと思います。持続可能になるということは、やはりセンターとして在り続けることだと思います。あとは、人材育成についてはやはり共通するところだと思っています。

(委員)

この情報交換会をやった時の中身が、架け橋期のカリキュラムに繋がっていけばいいなと思います。ただその場の子どもの様子だけではなくて、園小の接続に繋がっていくと記録にも残るし、それが成果にもなっていくのかなと思いました。ありがとうございました。

(事務局)

持続可能な体制作りの件についてですが、こういった皆様方からご指導いただく場を設ける費用であるとか、人材を確保するための人件費について文科省の交付金を充てさせてもらっているのですが、補助率も今年度ベースで大体45%いただいているので、そういった財政面からもセンターの継続を確立していくためには、人件費に対しての財政支援が必須かなと思います。その市町村や県・自治体で単独でセンターを起こし継続していくには人件費が必ず伴うもので、そこが単独費用でできるならばいいのですが、継続していく力が確実にあるとはどこの市町村や県も言えないと思うので、そういったときに財政的な支援があると大変心強いのではないかと考えます。

(委員)

質問をお願いします。令和6年度の計画に聖籠町架け橋期カリキュラムの自園化・自校化とありますが、町の架け橋期カリキュラムをもとにして今度各園・各小学校で修正されることはいいことだと思います。さらに次のステップだと思うのですが、これは最低しっかりやりましょうという考えや、さらに実効化しましょうという考えもあってよいのですが、各園や小学校でそれなりに工夫しないとなかなか直せないのではないかと思います。予想としては、このあたりがこのぐらいになるかなという見通しはありますか。もちろん素晴らしいことなのですが、少しハードルが高いなという場合もあるでしょうし、どうでしょうか。

(事務局)

自園・自校化については、カリキュラムの内容がものすごく膨らむことは想定していません。自分たちで実践しながら書き込み、さらに見直して自分たちはこういうところを大切に

しているよね、そのためにこういう活動を行うと良いよねというところを町のカリキュラムに加除修正していってくればよいですし、年間の見通しをもってもらいたいと思っています。現在は、どちらかというとアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムだけに目が向いていたところがありますが、架け橋期として年間を見通して考えることの大切さを理解していただき、管理職の先生が自園・自校の先生方に下ろして一緒に考えていってもらえればと思います。

(事務局)

架け橋期のカリキュラムもしっかり進めながら、改めてアプローチとスタートカリキュラムをしっかりベースとして価値付けていくというところだと思います。

(委員)

皆さんご存知の通り、出生数は減っているにもかかわらず、特別な支援が必要な子どもたちは増え続けています。そのうちのほとんどは発達障害が増えています。発達障害は本来は生来的なものであるのですが、実はその育ってきた幼少期の環境とか状況によって発達障害と似たような特性を示す子どもたちが増えていて、小学校の低学年で不適応をおこしている子どもたちが急増している状況です。そんな中、幼保小で繋がって架け橋プログラムでそれを何とかしようという取り組み、小学校から幼児教育をもっと充実させようという取り組みに、まずもって先進的に取り組まれている聖籠町は素晴らしいなと敬意を表しております。

この幼児教育の事業は、まず国があつて県があつて聖籠町が行っているのですが、その中で役職の名前が何種類か出てきています。こちらでは幼児教育アドバイザーと言っていますが、県の考え方では市町村に推進リーダーを育てていくと言っていますし、推進リーダーの中から架け橋のコーディネーターを育てるというようなことも言っています。県や国の言っている役割と内容的にはきっと同じでしょうが、聖籠町における推進リーダーやコーディネーターを今後またさらに育てるつもりがあるのかということをもまず一つ聞かせてほしいです。

それから、取り組みの内容は特別支援にとっても近いところがあると思って聞いていて、5年度の取り組みの中でも、園で子どもが自由に使えるように道具をちゃんと用意してあげるとか、選べなかったら選択肢を絞って提示してあげればいいのかというのは、まさに特別支援の手法と同じです。私も幼稚園を見に行くと、すごくいいシーンがたくさんあつて、いい保育をたくさんされています。そういうものがどんどん広がればいいのかと思うのですが、それを小学校へ引き継いでいくとなると、やはり何を引き継ぐのかが一番肝になると思います。そうすると、聖籠町架け橋メッセージが重要になるのかなと思うのですが、子どもの伸びたところを中心に据えた理由を教えてください。

特別支援でもやはり引き継ぎがとても重視され、具体的にどういう支援をするとその子がちゃんと動けるのか、いわゆる伸びたのかということと、本人が何を望んでいるのか、どう思っているのかという本人の主体的な気持ちを伝えることをとても重視します。伸びたところというのは、きっと周りの大人が見取ったところであつて、それについて本人がどう思っているのかということは伝わるのでしょうか。ひょっとしたらもう僕はいっぱいいっぱい頑張つて、これ以上さらに小学校で頑張れと言われたら辛いと思っているお子さんがいるかも

しれないし、まだもっと頑張りたいなと思っている子どももいるかもしれないし、本人の思いをどうやって伝えているのかなという部分を知りたいと思いました。

(事務局)

一つ目のご質問について、聖籠町は現在幼児教育アドバイザーで現場の園あがりは一人しかいないので、若い方に次を引継ぎ、安心して町の幼児教育を任せられるように人材確保について一応要望をしています。

(事務局)

二つ目のご質問について、子どもの良さに特化して伝えるというところですが、当初は幼保小の引き継ぎでは、園から送り出す先生たちの熱い思いの中で、保護者への対応やその子へどういう支援をするのかとか、その子が小学校へ行って困らないようにといった言葉が多くあり、そういうものが引き継がれることが必要だと感じる時もありました。しかし、1年生の担任はただ配慮事項だけを知って子どもたちや保護者と関わるのではなく、その子たちの伸びや良さを知って4月・5月関わっていくことで、お子さんや保護者といい出会いができるのではないかと思います。そのために、架け橋メッセージに今取り組んでいるところです。

さらに、個別にどんな支援をしてきたか、どういう支援が有効だったかというところは、現在介助員のついているお子さんにしか個別の支援計画がないので、来年度園の個別の教育計画をどうしていくかについては、青陵大学の専門の先生と研究していくことになっています。

(委員)

ご説明ありがとうございました。私は昨年4月に現場に戻り、コロナ禍で失われたものがたくさんあることを実感しています。その一つが、幼保小の連携であることを今年一年非常に痛感しています。先ほどのお話にもありましたが、低学年の子どもたちに不応が多いという実情は一体何なんだろうと考えながら今日のお話を聞かせていただきました。そんな中で、聖籠町の取り組みは小学校一年生を巻き込んだ幼児教育の推進体制ということで、架け橋期カリキュラムであったり、架け橋メッセージであったりと素晴らしい取り組みをされているなと感じました。特に新規でやられた架け橋メッセージについては、今ほどのお話にもありましたが、ともすると気になる子どもの配慮事項が中心となる引き継ぎがどの学校でもある中、この架け橋メッセージを通じて引き継ぎを行うということは、やはりイメージが全然違ってくるんだろうなと感じています。実際に今年度新規でやられたということですので、働き方改革などいろいろある中で、園がこれを作成することに対してどのような反応だったのか、またそれを引き継ぎの材料として受け取った小学校はどのような反応だったか、ということをお話いただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。まず、引き継ぎのところで先ほど少し説明が不足していたところをお話します。保健師さんと、子どもソーシャルワーカーが各小学校区におりまして、学区ごとと地区ごとの連携が我々幼児教育センターとも連動していますので、そういう課題がある引

き継ぎについてもカバーしているというのが町の強みであると思います。

二点目の架け橋メッセージの受け止めについてですが、やはり今の忙しい園の先生方の仕事を増やせないということで、指導要録は Word の一枚もので一人一人作成していたところを Excel の打ち込み一覧シートに置き換え、分量も今まで本当に一生懸命な先生が多くてすごい量で書いていたところを、文字数はこれくらいにしましょうと提示し文字数もきちっと出るようにしました。また、一人一人の子どもの伸びを書く部分も、全体の分量が増えるわけではないですし、印刷する際にデータがシートごと飛ぶようになっているので、訂正箇所があったり、あるいは園長先生が修正したりする際にもやりやすくなっています。これまでの Word から Excel への変更ということで、実際にやってみていただく中でこれでやりたいという先生方が多かったと認識しています。ただ小学校にはこれから渡すので、小学校の先生方の反応はこれからになります。

(委員)

まず、有識者会議の立ち上げ1回目の時からこちらに参加させていただいて、非常に感慨深く話を聞いておりましたし、最初の頃は例えば砂遊びのピンポイントの中で思考力をどう育てるかというような話から始まっていたと思いますが、幼児教育をどう捉えるかということ、まず町全体で考えてここまでこられたのだなと思います。例えばリーフレットであるとか、架け橋期カリキュラムや架け橋メッセージの作成であるといった取り組みの中に本当に凝縮されていて、とても素晴らしいなと思いました。

その上で、やはり架け橋期カリキュラムやそういった幼保小の連携の中で、幼児教育アドバイザーの二人の先生を中心に小学校への架け橋についていろいろと内容を精査し、こういうリーフレットを通して、またこれまで課題になっていることをいろいろな方法で発信しながらここまでこられたのだなあとと思います。

これからのこととして、小学校の先生はこの幼児期の育ちをどのようにこのカリキュラムの中に取り込んでいくかというところが、非常にまだまだ理解が不足しています。令和6年4月1日に聖籠町内の全小学校教員に架け橋期カリキュラムと架け橋メッセージについて伝達講習を行うというのは、すごい取り組みだなと思います。その年度にお子さんを受け取る職員が、4月1日にそれを聞いて取り組んでいくということはすごいなと思います。それを受けてさらにいろいろな研修や合同研修をやっていくと思うのですが、自校化するためにどうするかというような研修が必要であると思うのですが、それが今後具体的にどんな形でやっていけるかというのが一つの質問です。

もう一つ気になっていたのが、3歳児から5歳児の一貫した保育の中で、10月13日の新潟日報に聖籠町が2025年度に0歳から2歳児までの保育園を新設するというで一貫した保育制度に矛盾するとなっています。それはいわゆる未満児の保育なのでしょうが、聖籠町が目指すずっと継続した教育の中で、新しい保育園をどう繋いでいくのか非常に気になるところで、分かる範囲で教えていただければと思います。

(事務局)

今答えられる範囲でお答えしたいと思います。先に保育施設建設については、ありがた

いこ

とに聖籠町は県内でも唯一人口が維持または微増しており、中でもこの令和4年度に0から5歳児を受け入れる認定こども園化が行われたことによって、入園率が大変伸びました。それまでは、ご家庭で3歳まで保育をする家庭が全体のやや4割ほどいらっしゃいましたが、今は大体8割から9割近いご家庭が1歳から2歳までに入園させ、お仕事をするため育児と仕事の両立を望まれるご家庭が大変増えています。聖籠町は子育てに優しい町をうたっておりますので、そういったところにご期待があったのか、お子さん連れでの転入もしくは転入後の出産を望まれる方が増えています。聖籠町が私立4園と、町立1園を合わせた5園体制で全てのお子さんを受け入れていたのですが、そういった事情から入園を希望するお子さんに対して供給できる保育の受け皿が足りなくなる見通しが増えましたので、緊急的に私立の未満児の保育施設にお声を上げてくださる事業者さんが出ましたので、ぜひにということをつくっていただくことになりました。本来は、町立での保育施設の建設も検討事項にあがっていきまして、町立保育園というようなお話もあったのですが、その民間事業者さんからのご提案もあり今回は民間の方での建設になったと聞いています。

幼児教育センターとの関わりですが、聖籠町においては町立・私立関係なく全てのお子さんを、どういった条件どういったご家庭関係なく全て平等に受け入れるというスタンスでありますので、幼児教育センターも新しく建設される保育園と関わっていきたいと思っています。事業者からもぜひ聖籠町に協力していきたいとお答えいただいていると聞いています。ですので、新しく開園する私立保育園についても幼児教育センターが関わっていき、聖籠町の教育・保育施設全てが連携していく体制を維持できるという見通しをもっています。令和7年4月から開園予定ですので、0～2歳児の未満児保育施設1園と、3～5歳児の町立幼稚園1園、そして0～5歳児の認定こども園4園の全ての6園と一緒に連携しながら、小学校に繋げていくような体制づくりになっていくと考えております。

(事務局)

ハード面は動いていく、ソフト面のところは全国一緒だと思いますが、どのような園の保育形態であっても、私達がきちっと幼児教育センターとして機能していく準備を進めるということだと思います。

(事務局)

前段の架け橋期カリキュラムの自園化・自校化の研修についてですが、園については幼児教育アドバイザーが毎月2回ずつ訪問し、保育だけではなくそういうことに関しても園長先生等へアドバイスを行っていますので、園の方はアドバイザーが入りながらレクチャーしていきたいと思っています。自校化については、4月に3小学校で園教諭による新一年生の授業参観の後に情報交換会を行います。そのときに1年生担任と管理職の先生にも入っていただきますので、そこで架け橋期カリキュラムの自校化について具体的なお話をしたいと思っています。また、令和6年度の園小合同研修会は架け橋プログラムを基にした協議題にする予定ですので、そこでもさらにお話していきたいと思っています。

(委員)

本日は聖籠町さんが町ぐるみで取り組んでいることを初めて聞かせていただいて、本当に素晴らしい取り組みをされているなと思いました。現場の目からいうと、幼児教育アドバイザーが各園に月2回ずつ計10回まわって指導されるということとはご苦労もついて回りますが、これがあるから現場の先生たちが座学だけでは学べないこと、目の前の子どもに対する保育を自分のものにしていくことができ、それがまた資質向上に繋がるのだらうと思いました。

それから、このリーフレットですが、私達も研究保育等を開いて小学校の先生たちにも見ていただくんですが、こんな遊びの中にこんな経験をしているんですよと言ってもなかなか分かってもらえない。でも、このイラストが非認知能力を含め、子どもの関わりの中でこんな視点をもってほしいというのが本当によく分かるので、これがあれば小学校の先生もどこを見たらいいのかというのが分かりやすくなるんだろうなと思いました。

一つ質問なんですが、人材育成のところで幼稚園教諭保育士の育成指標を一部改定して、自己評価をつけていくそうですが、例えばどんな項目でやられていくのか聞かせていただきたいです。

(事務局)

人材育成指標は、例えば幼児理解というところでは、1年目から5年目の先生は乳幼児との積極的な関わりの中で発達を理解し、適切な指導や支援をするとなっています。また、園小連携のところでは、1年目から5年目の先生は幼児期の終わりまでに育てほしい姿を理解し実践するというように、年数によって目指す姿は変わっていきます。

実際これは令和2年度に作ったものですが、あまり活用されていないので、来年度そこに自己評価ができるABCという項目をつけて、現場の先生たちに活用してもらい振り返る機会にしてもらいたいと考えています。

(委員)

感想ですが、架け橋メッセージに子どものいいところを書いてあるというのがやっぱりいいなと思いました。それで、来年度小学校の先生がどういう反応だったか楽しみにしています。あと、私立認定こども園は四つですが、町の幼稚園は一つとなって定員が少ないので、今年度もたくさんいろいろなことをやっているの子どもが入ってくれたらと思います。

それと、今年度は町立と私立の5園から子どもたちが入学した初めての1年生なので、子どもたちの様子はどうだったのかなということと、先生たちの反応も気になりました。それと、私立の先生と町の先生が仲良くどんな感じでやっているのかなと思いました。

あと、保護者の交流についてもコロナが明けたので、保護者が仲が良いと子どもにも伝わって小学校で団結したり仲良くしたりしていけると思うので、交流も少しあるといいなと思います。

(事務局)

職員の方は、私立には町からの派遣職員と私立雇用の職員がいて、3・4・5歳児を町の職員が担っているところが多いのですが、だんだん私立でも同じ学年で2クラスあると私立の職員と町の職員が1クラスずつもって、お互い話し合いながら保育を進めていくという体制をとれるようになり、今年二年目になるのでだんだん垣根が取れてきているのかなと思います。また、私立の職員もすごく教えてほしい、もっとこういうことが知りたいという声が出てきて、最初は遠慮がちでしたが、なかなかいい雰囲気になってきていると思います。

(事務局)

1年生の様子ですが、元々一園一小で一緒だった子どもたちが令和4年度にそれぞれ違う園に行って、また5年度に1年生になって再会をしています。子どもたちの様子は、昨年4月に3小学校を見て回り、その前の体験入学から見ていますが、やはり体験入学ではおお懐かしいなあという感じでしたが、小学校に入ったら切磋琢磨ではないですがみんなすごく仲良く頑張っていて、とても立派な1年生になっていました。受け取った先生方も、どの園から来た子どもにも細やかな配慮をされていて、立派に成長した子どもたちの姿に感動しました。

(事務局)

それでは、これまでずっと関わってくださった座長から最後締めのご挨拶をいただきたいと思います。

(委員)

幼児教育センターの今年度の取り組みがまとめられていて、とても良かったと思います。これまでどんなことをしてきて、どう改善したのかがよく分かり、それを自分たちが自覚することが大事だと思います。ぜひリーダーがこれを大事にしてほしいですし、やはり今は効率がとても重要です。職員の皆さんがいかに無駄なところは効率化し、一番大事な一人一人の子どもにどう向き合う時間をつくれるか、エネルギーをつくれるかが重要なので、そういう目でこれを見ていただければと思います。また、各学校が柔軟に対応できるような工夫がいくつかされていて、それもぜひこれから進めていただきたいと思います。さらに、園小接続でこのようなシステムを確立してより効率を上げるのはとても重要なことですし、令和6年度に町のオンライン研修をするとありますが、オンラインでやることでエネルギーの無駄がないこともかなりあるので、うまく視点を明確にしてやっていただければと思います。この感じでやっていただければ素晴らしいと思います。

あと、他の研修施設へ伝達発表をしたとありますが、外に発信することはとても重要だし、それは社会貢献にもなりますが、それ以上に発表することによって自分たちが何をしてきたのかを振り返る大変良い機会になり、次に何をすべきかが分かります。それが発表の良さでもあるので、ぜひやってほしいと思います。また、令和6年度の計画にある青陵大学の先生との共同研究も素晴らしく、それによって効率化を図れるし、この部分は大学にやってもらうことができるので非常にいいことだし大変期待しています。

それから、架け橋期カリキュラムを自園・自校化するときに、自分が小学校教員の時なら、

ここの中の重点を決めてくださいとか、指導上の配慮事項を落ちなく出してくださいなど、何かもう少し視点を加えてもらえればありがたいと思います。そのあたり、少し方向性を見せていただくと、やや苦手な人もやりやすくなるのではないかと思います。ある程度リーダーが方向性を示すことは重要だと思うので、ああいうパターンもあるし、こういうパターンもあるよと示していただければと思います。以上、勉強になりました。どうもありがとうございました。

(事務局)

本日、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。この会でいただいたご意見をもとに、また聖籠町の全ての子どもたちの幸せのために、また保護者さんの笑顔のために精一杯努めてまいりますので今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。本日は大変ありがとうございました。以上で終わります。